

筑波学院大学  
学食で朝ごはんをほおぼる学生はつくば市吾妻の



# 100円学食朝ごはん 好評

## 筑波学院大

筑波学院大学（つくば市吾妻）が、低価格の朝ごはんを学食で提供する取り組みが2年目に入った。授業で朝の早い学生に食事を取ってもらうなどの学生サービスの一環で昨年度に開始。財布にやさしい100円で食べられるセツトメニューは「値段の割にいい」などと利用する学生に好評のようだ。大学側の担当者は「引き続きコンスタントに利用してもらえたら」と手応えを語る。（橋本ひとみ）

ハンバーガー、野菜サラダ、ワカメスープ、コーヒ。取材日の朝、学食の机にはパン食中心の洋食メニューが並んだ。朝食メニューは1種類のみ。米飯にみそ汁とおかずが付く和食と、パン食の洋食が、日替わりで登場する。

朝食サービスを行うのは休暇時期などを除いた火曜、金曜、午前8時30分から午前10時まで。1時限（午前9時開始）と2時限（10時40分開始）に間に合う時間設定だ。低価格で提供するための差額は大学が補う。今年

## 低価格で学生サポート2年目

「100円というの、はやっぱいい。ご飯程度の利用だ。」「値段系の日もボリュームがの割にいい。多く食べたいし、おいしい。」

経営情報学科3年の久保圭伸さん（20）は、こう感想を話した。昨年度の開始当初は週2回程度、利用した。1人暮らしで朝食を作るのがしんどいことが多い、そのまま（学校に）来ちゃったことあるという。



取材日の学食朝食サービスメニュー

たい時は食分頼むこともある」と、先輩からのおすそ分けを元気にほおぼっていた。朝食をあまり利用したことがない2年の田尻満里奈さん（19）は「量もちょうどいい。今日はパンだが、ご飯も食べてみたい」と好意的に話した。学食の朝食サービスは、一人暮らしや留学生、通学で朝早く家を状況とみている。校内教職員でつくる出る学生らの規則正しい生活や、午前の授業出席をサポート。学食プロジェクトを担う出陣をサポーター。学食利用のPRも兼ねて行っている。全国各地で「朝ごはんを食べて、1時限や2時限の授業に出るのは健康的でいい」となどと良さを説明する。学食への関心の高まりも感じると言い、「知らない学生には知ってもらいたい。できる範囲で学生の希望も聞いていきたい」と意欲を話した。

年度に希望者にパンと飲み物を配るなどのテスト期間を経て、利用が見込めると判断。昨年度から学食での100円朝食サービスを始めた。初年の利用は1日当たり20〜30人程度と想定通り。同大の規模（学生数4802人）から学食を営業している。

近隣の朝の学食営業の状況を尋ねると、筑波大学（つくば市天王台）では以前から、1時限目前の午前8時20分に営業を始める食堂がある。流通経済大学（龍ヶ崎市）も、部活の学生向けに朝から学食を営業している。